

HALOHALO Annual Report

2016

Make a chance to the world



特定非営利活動法人ハロハロ
2016年度年次報告書

代表挨拶

2016 年も多くの皆様のご協力・応援の下、活動を積極的に展開できたことに心より感謝申し上げます。皆様のお力添え、本当にありがとうございます。

NPO ハロハロも 2017 年で、活動をはじめてから 9 年目、法人格取得からは 5 周年を迎えます。

じつはここ 2 年ほど、応援者協力者が増え嬉しい反面、皆様の期待や皆様への責任に不安を感じ、事業の成果と拡大に悩んできました。

もっとも多くいただくお声は『私たちハロハロの組織規模に対して、あまりにも多くの事業をやりすぎているのではないか』という懸念でした。実際団体内部メンバーからも同じような心配の声があがっていました。

ただ、私自身の想いは初めてその問いかけをされた時から今も変わらず『NO』です。

私たちハロハロは「世界にチャンス」をモットーに、内部メンバー 1 人 1 人が自分と世界のチャンスメーカーになるべく挑戦していく力を強みにしています。多くの人が応援し協力していただければ、自然と事業拡大につながります。小規模資金貸付、環境美化、語学文化交流、衛生教育指導、国際理解講座などそのどれもが私たちハロハロが掲げるビジョン『だれもが魅力的に働き生きる社会』を目指す大切な取り組みです。

取り組みが増えるにつれ、私たちの掲げるビジョンとのつながりが見えにくくなり、『多くの事業をやりすぎているのでは?』という疑問が出るのではないかと思います。2016 年はとくに内部メンバーとのコミュニケーションの機会を増やし、私たちの団体理念と活動をスタッフ 1 人 1 人が理解し外に向かって伝えられる場を定期的に持つことができました。言葉だけのコミュニケーションではなく、論理的にも把握できるよう、理念と活動をロジック化していくワークショップなども、専門家のご協力のもとに継続的に行なっております。

中長期目標設定にも力を注いでおり、私たちの活動と理念への道のりをより具体的なものにしようとしています。

私たちハロハロは今後も日本とフィリピンの事業地で、多くの人が応援し協力して下さることで事業を発展させていく方針です。

その受け皿を整えるべく、組織としても成長していきます。

2016 年は悩みながらも事業と組織とともに成長させていく方針であることを共に歩むメンバーとともに確認しあえた年となりました。

私たちは今後も応援し協力して下さる皆様に、ハロハロらしくお応えしていきたいと思います。2017 年も引き続き共に皆様が進みを進めて下さることを願っております。



特定非営利活動法人ハロハロ
理事長 成瀬 悠

Contents

- P2 代表挨拶
- P3 ハロハロ概要 活動ハイライト
- P4 マニラ事業地レポート
- P8 セブ事業地レポート
- P11 日本事務局から
- P14 2017 年挑戦
- P15 サポーター・スタッフ御礼

ハロハロ概略

- 2008.10 代表成瀬悠、NGO LOOB でフェアトレード販促としてボランティア開始
- 2009.7 個人事業ハロハロプロダクツ設立
- 2011.1 NPO 任意団体ハロハロプロダクツに組織変更
- 2012.12 特定非営利活動法人ハロハロ設立

フィリピンのスラムで廃材を活用し手工芸で作られる雑貨の日本での販売を担った 2008 年から、現在は手工芸だけでなく小規模資金貸付、学校や奨学金制度運営、組織化支援、地域連携など広く人を育て地域発展に携わる活動となっています。

ハロハロ概要

Our Vision (目指す未来の社会像)

すべての人が魅力的に働き生きる社会

Our Mission (現在の取組)

フィリピンの貧困地域の人々とのパートナーシップのもと、持続可能な働く機会を広げます。

豊かさを共有できるライフスタイルを世界へ広げます。

- 1：生計向上 LIVELIHOOD
- 2：教育 EDUCATION
- 3：人材育成 EMPOWERMENT

活動 MAP

マニラ

5箇所のプロジェクトサイト

1. マニラ
ケソン市パヤタス
リサール州ロドリゲス
2. セブ
(中部) タリサイ市ドゥムログ
シティオールマ
シティオホープ
(北部) メデリン市バヌグワン

セブ

活動内容と地域分析図

		生計向上				教育			人材育成 (啓発)		
		廃材雑貨	シェアアクセ	洗浄・マット	資金貸付	幼児教育	再生 PC	奨学制度	環境美化	国際交流	催事 (出展)
マニラ	パヤタス	○				○	○	○		○	○
	エラップ	○				○	○	○		○	
セブ	シティオールマ	○	○		○		○	○	○	○	
	シティオホープ			○	○	○	○	○	○	○	
	バヌグワン (北部)			○	○						
日本		○								○	○

2016 年活動ハイライト

マニラ

日本国際協力財団による助成で、生計向上事業をマニラ現地で社会的起業にする 3 年計画がスタート。
生産能力だけでなく、マーケティング、ブランディング、セールス能力の強化に挑戦中。
現地インターンを中心に、定期的にハロハロ活動説明会や語学交流、ボランティア体験会を実施。

セブ

らあ麺屋ひろ教育基金による幼稚園運営に地域の人々も積極的に関与。
環境美化活動が活性化し、トイレの設置や生計向上事業へと展開。
セブ北部事業地で日曜消耗品の生産と販売の生計向上事業がスタート。
現地ボランティアを中心に語学交流もスタート。

日本

東京・門前仲町に事務所を移転して 1 年、設備増とともにボランティアスタッフも増加。
月末スタッフミーティングが定例化 (フィリピン事業地スタッフともオンラインで接続)。
フェアトレードちばグループも毎月のミーティングが定例化し、不定期で催事や勉強会の実施増。
マニラ・セブ両事業地の協働団体を招いたお話を開催。



ハロハロの主役は地域の人々。

NPO HALOHALO MANILA

マニラ事業地レポート

1：生計向上 Livelihood

地域の人々の手で社会的起業を立ち上げる 3 年計画開始 !!

2 地域にて約 35 名の女性たちが参加

- ・パヤタスダンプサイトのサマカバイ住民組織センター
- ・ダンプサイト拡大に伴う再居住区エラップ地域のパーラン・パンタオ（学校）

講師や運営に地域の人々約 10 名が関わり地域に根付いた活動として展開中

2016 年 4 月より日本国際協力財団様の助成事業として、マニラ事業地での廃材を活用した雑貨製作による社会的起業育成事業が始まった。四半期の報告と年次毎の計画が求められるが 2018 年までの 3 カ年の継続した助成事業として採択され、今まである程度技術ある女性のみが参加していた手工芸事業に全く 0 からでも参加できる技術講習会が毎週開催されるとともに、製作だけでなく、広報から販売まで自分たちで行える能力を身につけるマーケティング、ブランディング、セールス講習会も不定期に開催されるようになった。講師には現地と日本から専門性を持つ人材を招いており、2016 年は 2 年前にも一度来訪



経験のある大阿久あづさ氏が発展的デザイン講習を実施、黒柳英哲氏は組織運営講習を実施した。地域の人々は「難しい」と言いながらも、新しいことを学ぶ喜びを得ていた。これらの成果として、2016 年末にはパヤタス、エラップ両事業地にローカルに向けて製品を展示販売するショーケースを稼働させることができた。記録や販売体制の調整が必要だが、2017 年はローカルとグローバル両方のマーケットで売り上げを伸ばすことを目指している。

2 : 教育 Education

ダンプサイトと再居住区 2 校の幼稚園運営と奨学生支援をスタート

地域の子どもたち約 200 名が通学する幼稚園の運営を支援
 学校付近の父兄へのアプローチに成功し生涯学習と生計向上事業に連携
 パーラン・パンタオ奨学金事業を支援し、次世代人材育成とロールモデル化が進行中

ごみ捨て場の思いやり学校パーラン・パンタオは、まだパヤタスが巨大なダンプサイトとなる前の 1989 年代表者レティ氏の家庭教育に端を発し、地域の人々や行政、民間団体とのニーズと連携のもとに、現在再居住区地域を含めて 2 校を運営するに至っている。今日に至るまでこの学校の運営費については大きな課題となっており、日本やシンガポール、スイスなどの個人や団体の支援者がいるものの安定した資金援助ではなくまたその額も年々減っていることから、現在フィリピン国内で安定した資金調達を行なっていくべく NGO 登録と正規の学校としての登記を進めている。体力的にも年齢的にも代表レティ氏が



ら、経営や運営面はその息子たちに引き継がれており、2016 年ハロハロではこうした状況を鑑みともに地域の人々が主体となり持続可能な運営ができる学校組織となることを長期的にサポートすることとした。

ハロハロが主要事業として行う生計向上の成果拡大のためにも、次世代人材育成と人々への生涯教育にアプローチできる現地団体が必要であり、パーラン・パンタオとは「人々のための学校」という意味を持ち、広く子どもだけでなく地域のすべての人々のための学校でありたいという理念において共通する未来像を描いている。

現在パーラン・パンタオの 2 校には約 200 名の未就学児童が通学しており、教育改革により幼児教育を重要視されているフィリピンにおいて来年以降も地域のニーズは高い。またこの学校では教師としても地域の人々を現在 10 名受け入れており、教職資格の取得までサポートする生涯学習の機会も提供している。

パーラン・パンタオでは最近奨学金制度も始めており、この地域事業をよく知る先生たちからの情報を基に地域の中でも特に経済的に苦しい立場にありながらも進学を望む生徒のいる家庭にアプローチし現在 10 名の奨学生をサポートしている。ハロハロではこの奨学金制度へも資金と地域社会参画へのサポートを行っており、奨学生たちは学校の勉強だけでなくパーラン・パンタオとハロハロが行っている教育や生計支援、国際交流事業などに毎日一定時間参加することが義務付けられており、地域社会を発展させていく次世代人材としての活躍が期待されている。



3 : 啓発 Empowerment

マニラ事業地でフィリピン人と日本人の相互協力により視野を広げる機会拡大

約 200 名の児童にはみがき習慣を指導

リユースパソコンは教育と生計向上の両事業で約 30 名の人々に活用されている

年 20 回以上語学交流を実施、毎回 10 名程度参加（のべ参加者数 200 名）青少年育成に成果

各種スタディツアーも 17 回実施、日本人約 70 名と地域の人々約 200 名が交流

マニラ市内で活動説明・お話を 7 回開催のべ 70 名以上の参加者

2016 年は JEC 連合様のスマイル byJEC 助成金で保健衛生事業を実施、マニラ事業地では幼稚園にはぶらしと歯磨き粉を常備し教師たちが児童に対して給食後はみがき習慣をつける指導を行なった。2015 年度に同じく JEC 連合様スマイル byJEC で助成いただき、Class for Everyone 経由で導入したリユースパソコン 3 台は、再居住区地域を含めた 2 地域で、幼稚園の先生たちが授業リサーチに使用したり、奨学生たちが学習課題作成をしたり、さらに生計向上事業の記録と会計に役立ては始めている。

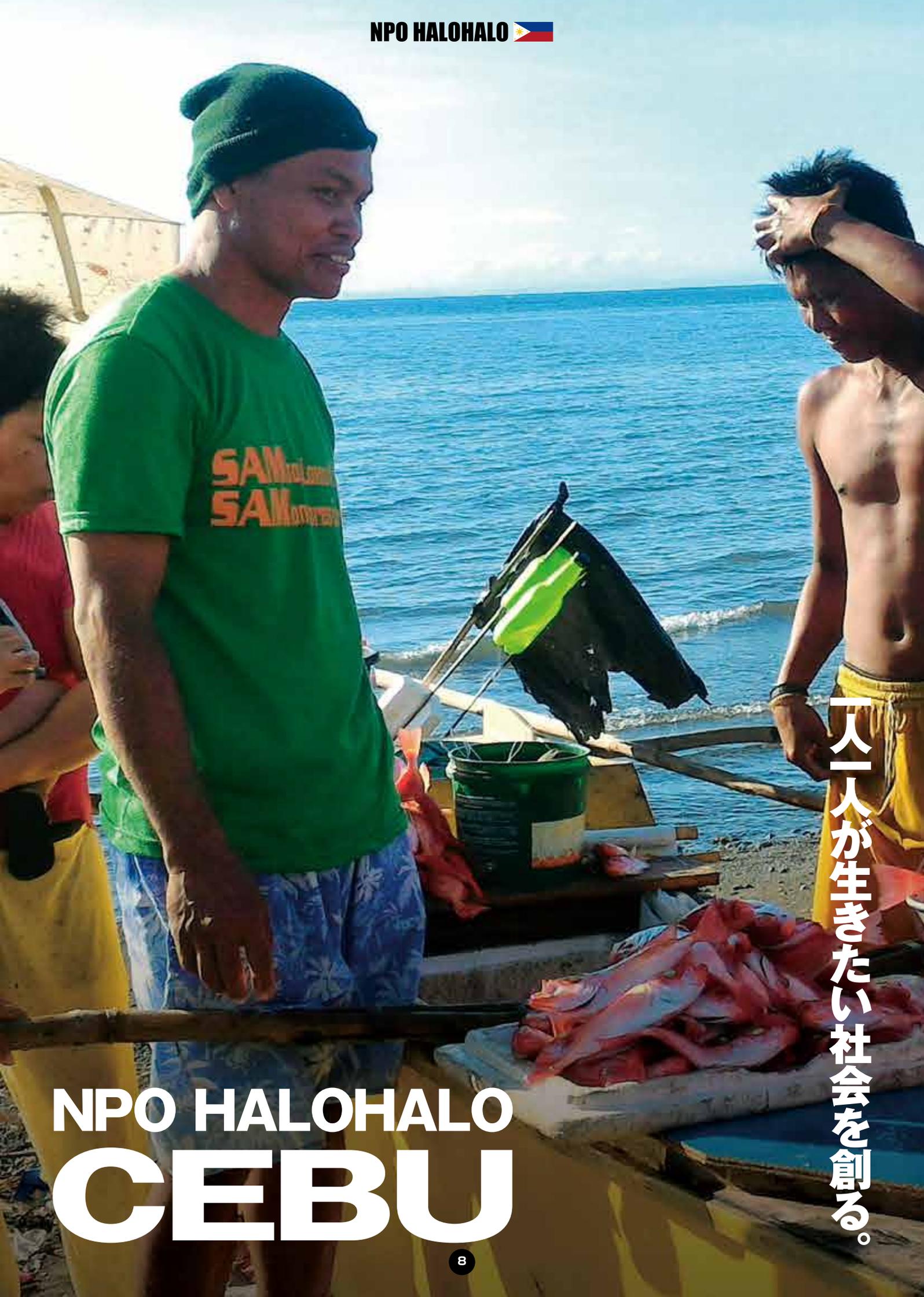
現地の奨学生と日本人インターン生を中心にはじめた語学交流会も

定着し、ほぼ毎月 2 回実施され、相互の文化理解を深めるとともに、スタディツアーなどでほかの日本人と交流する場での積極性の向上などにもつながっている。

スタディツアーで現場を訪れる日本人が増えており、地域の人々にとっては自分たちの活動について説明することで活動の振り返りや責任感につながっている。またスタディツアーにおいて日本人とフィリピン人の異なる価値観を共有し相互の貧困をはじめとした社会課題への意識を深めるきっかけになっている。

2016 年はマニラ市内で定期的に活動説明会を開いていくことで、間口を広くマニラに滞在している人々へ開く挑戦を行い、インターン生が中心となって実施したことで UP、デラサール、アテネオ各校に留学している日本人学生を集めたサロンを行うことができた。今後はさらに社会人巻き込みに向けた取り組みも考えていく方向である。またこのサロンの場に現場のフィリピン人を呼ぶことで、彼らの発表の場にもつなげている。





一人一人が生きたい社会を創る。

NPO HALOHALO
CEBU

セブ事業地レポート

1：生計向上 Livelihood

フェトレード事業だけでなく日用品の生産販売など手工芸事業が発展

Feliz 様協働で地域の女性たち約 10 名が収入アクセサリ製作技術を向上中!!
組織運営に課題を抱えながらも漁業グループは 2017 年に更なる挑戦
セブ北部女性たちが始めた日用品生産販売が中部の女性たちにも展開

Feliz 様との協働事業では、ご注文 4 回計 301,178 円分、さらに 1 Bracelet for 1 Food 製品の売り上げによりセブ事業地での栄養食配給に 79,700 円（ブレスレット 797 本分）をご寄付いただいた。地域の女性たちの中でも手先が器用で向上心を持って取り組める女性たち約 10 名が参加しており、Feliz 代表柿本可奈子さん自らが 4 月と 8 月の 2 回にわたって技術講習会を現地で開催していただき女性たち約 30 名が集まった。今まではシンプルなブレスレットしか製作できなかった人々が、編み込みなどの技術を必要とする製品に挑戦することができた。2017 年以降も定期的な技術向上に取り組み、女性たちの地域社会参加と収入向上を目指したい。



漁業グループは組織運営の課題が大きく 1 年半この組織改革に取り組んできた、役員の刷新とメンバーたちとの意思疎通や定期ミーティングの実施、記録などゆっくりとした一歩ではあるが時間をかけることで確実に人々の意識が変わっている。全く不慣れな記録や管理作業と地域の人々の責任感をどうもたせていくかというようないリーダーシップ的なアプローチについては、まだまだ不完全なものの、2017 年は少しずつ事業を再開しながら取り組んでいこうとしている。個別での貸付で信頼関係に問題が出たことから、2017 年はグループとして資金を運用した漁業拡大に乗り出そうとしている。2016 年 5 月から日用品（洗濯洗剤、柔軟剤、食器洗剤）の生産と販売に取り組みはじめたセブ北部の女性たちは、今までにない挑戦でハロハロ側も不安が大きかったものの、ゆっくりとではあるが着実に販売を継続しており年末よりローンの返済もはじまった。このような取り組みの話了他地域でも共有したことで、セブ中部事業地の女性たちもこの日用品製作販売に興味を示し 10 月より取り組みはじめ北部よりも早いペースで販売と返済が進んでいる。さらに中部の女性たちはラグ作りを覚え、フィリピンローカルでかかせないものとなっているドアマットの生産販売もはじめ、村役場もその販売を支援してくれている。

2：教育 Education

地域に持続的な教育の循環を作ることを目指し幼児から高等教育までを網羅

らあ麺屋ひろ教育基金 年計 90 万のご寄付で幼稚園と奨学生輩出を継続中
幼稚園約 20 名、奨学生 7 名が教育や IT の大学へ進学中 土曜学校には約 100 名が参加
パソコンやネット環境を整備することで義務教育課程の生徒の学習支援環境を整備中

セブ中部事業地にクラウドファンディングで地域のためのセンターを構えて約 1 年半。らあ麺屋ひろ様からの教育基金を受けて、2015 年夏から始まった幼児教育も教師と父兄の関係構築や学習環境整備、学習計画整備などに時間がかかったものの、2016 年 5 月には奨学生として教育課程を卒業したジェネリンを



新任教師として地域に迎えることで、地域の父兄たちとの理解が深まり運営面でも父母会が支援はじめるなど地域の人々の手に主体が渡りつつある。この幼児教育の場を中心にして、地域の父兄が集まることで地域の社会課題を考えるアプローチにも広がっている。現在約 20 名の子どもが平日朝 7:30-9:30 で幼稚園に通学しているほか、毎週開催される土曜学校には地域の幼児から青少年まで約





100 名が集まり、地域の年長者が年下の面倒を見ながら道徳的教育的アプローチを行う社会参加の機会になっている。幼稚園では朝食としてミルクが配布されるほか、土曜学校ではチョコレートがゆや中華がゆなどが配布されている。

さらにはあ麺屋ひろ様教育基金で奨学生輩出を支援いただいております。2016 年は中部事業地から 7 名の奨学生を教育または IT の分野の大学に進学させている。地域からロールモデルとなり地域社会発展を支える次世代人材の育成につながっている。奨学生たちは学校の勉強以外にも、ハロハロと現地協働団体が

行う生計向上、教育、啓発活動などに参加することが義務付けられており、土日なども積極的に地域サービスに参加することで社会参加意識を育てている。

フィリピンの義務教育課程の小学校、中学校、高校では、パソコンやネットを使ってリサーチをしドキュメントとして印刷して提出するような課題が多い。パソコンなどの設備をもたない子どもたちはネットショップなどでその作業を行うこととなるが両親がそのお金を負担できるかどうか問題となり、課題提出ができないために学校に通学しなくなってしまっている子どもたちもいる。そのような課題に対処すべく、2014 年よりハロハロでは対象事業地へのパソコンとネット環境の整備をはじめており、子どもたちの学習環境整備と通学意識向上に役立っている。2015 年には JEC 連合様のスマイル by JEC でリユースパソコンをマニラとセブ両事業地にのべ 7 台導入したが、日本のリユースパソコンだと現地での使用状況とあわない点もありまた壊れやすくもあった。2016 年ほとんどのパソコンが修理が必要になったこともあり、2017 年度ローカルのニーズにあったパソコンの導入を随時検討していく方向である。



3 : 啓発 Empowerment

地域の人々が近隣住民を巻き込むことで事業対象者数が増加中

セブ中部事業地で約 24 回毎回の参加者数は 30 名にもものぼるごみ拾い活動を継続実施

ごみ拾いから住民の環境美化意識が向上、トイレ設置が進む (4 台導入中)

語学交流を約 10 回実施し中部地域の青少年約 30 名の異文化理解促進に貢献

スタディツアー実施 8 回 合計日本人約 40 名 フィリピン人 200 名が事業地で国際交流

スタディツアーなどを通して 2016 年は地域の子どもたちに「うがい手洗い」や「はみがき」などの衛生面での指導が行われ、地域の幼稚園からこれらの実践が行われている。子どもたちから地域の大人を啓発していく一面も見られる。地域の清掃活動が活発になりトイレが設置されていくことと合わせて衛生教育が大きな意義を持っている。

語学交流では日本人ボランティアの活躍により地域の青少年約 30 名が参加し日本語とセブアノを学び合うことを通した国際交流に発展。スタディツアーなどで日本人と触れ合う機会の増えた青少年たちにとってもっと言語コミュニケーションをとりたいというニーズと期待が高まっている。2017 年も継続していく。

ごみ拾い活動が始まって 1 年、はじめは 10 人弱ではじまった活動も地域の人々 30 名以上を巻き込む大きな力になっている。今年は JEC 連合様のスマイル by JEC 助成金を通しゴム手袋やなた、すき、運搬用具など清掃備品を揃えることができた。清掃活動が進み地域の環境美化が持続されるとともに人の排泄物が課題となりトイレ設置数が 2 割に満たない地域で「全員がトイレにアクセスできる環境を」を合言葉に、グループにローンシステムを構築しローンを組んでの設置が進み、現在 4 世帯に導入された。このローンの返済などもあり、中部地域の人々は生計向上事業も同時に必要性が高まって積極的に手工芸品の販売を行っている現状があり各事業の相乗効果が見られる。



このごみ拾い活動は当該事業地の村役場からも高く評価されており、現在村役場そして市役所ともに大きな問題として捉え



られているゴミ処理についての協働が望まれている。地域行政は予算的な問題からもゴミ処理と運搬に必要な車輛が大きく不足しており (20 数地域を巡回すべき車が 1 台しかない)、2017 年にハロハロと協働して 1 台ごみ運搬車輛を地域に導入していきたい方針だ。そしてごみの分別やリサイクルの推進、堆肥化などの持続可能なアクションにもつなげるべく草の根の活動を通じた啓発活動も望まれている。

働き生きる、チャンスの世界に
NPO HALOHALO
ハロハロ

NPO HALOHALO
サポーターと寄付者
100名キャンペーン!!

NPO HALOHALO
- ハロハロ -



NPO HALOHALO
JAPAN

あなたの力を世界へ。

日本事務局から

1：啓発

国際交流

スタディツアー ご参加者の皆様、ありがとうございます！！

日本人側だけでなく、地域の人々にとっても多様な価値観を知り視野を広げる大切な機会となっている。

フィリピン事業地の現場の青少年や女性たちがボランティアとしてアテンド参加しともに学び合う機会を広げているほか、フィリピン事業地の人々が自分たちの取り組みを外部に向けて話す貴重な機会となっており、地域の人々が主体であることを確認しあい実施事業に関する意見を交換しあっている。

今まで前に出る機会をあまり持たなかったような人々にとって、人前で話したり発表したりすることで自信をつけていきより積極的に社会参加するようになる姿勢が見られる。

またスタディツアーで行う家庭訪問では無作為に地域の過程を選択しインタビューを行うことで、自分のことを気にしてくれる他の人がいる、地域の人がいるという意識共有となり、地域の連携強化にもつながっている。

・ハロハロ企画主催 1 週間のマニラ・セブツアー

GW、夏休み、冬休みの 3 回実施 13 名様が参加

(GW) 岡田純子様、藤井美和子様、佐藤史隆様、西村拓人様

(夏休) 中村友美様・佳美様、佐藤琴乃様・萌乃様、國井直温様

(冬休) 土井法子様、株根秀之様、西村拓人様、田原明様

オーダーメイドの計画での受け入れも随時実施 約 100 名の皆様のご訪問

現地受入団体) 匿名大学 2 校様、学生サークル 1 団体 (Bukas 様)、NPO 法人

PALETTE 様、特定非営利活動法人ギーエルエム・インスティテュート様、NGO go share 様、NGO EST 様

個人参加者) 榎園裕輝様、磯上祐美子様・日向子様・潤奈様、江口春奈様・夏坂まみ様、山田啓一様、荒木龍太郎様、海宝慎太郎様・

Keshav 様



語学交流

マニラ、セブの各事業地では現地の言語と日本語を交換し合う語学交流を定期実施中。

東京では現地の人々との交流のためにも英語を学びたいニーズに応えた EnglishSalon が 12 月より始まった。

2017 年はマニラ、セブ、日本での語学交流を連携させていくことで、語学だけでなく文化交流や社会課題への参加機会に拡大する方針。



お話会、説明会、勉強会

2016 年はハロハロが向き合う社会課題とその取り組み方針について学びを深める機会を多く設けた。

3 月はマニラ事業地協働団体バーラン・パンタオ事務局の Jaycoben 氏が、11 月はセブ事業地協働団体トゥライサキナブヒより代表の Glemar 氏が来日。現地の人々が置かれる生活状況と自立を目指した事業について生きた言葉で伝えてもらう機会を得た。のべ 35 名の日本人が参加し貧困地域の社会課題に対しての意見交換を行った。

またフィリピン研究を専門とする玉置氏協力のもとに、全 3 回のフィリピン貧困再考セミナーを実施。約 20 名の参加者とフィリピンの歴史的背景や文化を理解しながら 2016 年の大統領選のもと変わりゆくフィリピンの社会状況を深め貧困問題について向き合う機会を設けることができた。

2015 年より毎月末日曜に開催を継続しているハロハロ休日サロンは、活動説明だけでなく近況レポートも行ないはじめ、サポーターの交流の場にもなりつつある。不定期ではあるが名古屋や京都、マニラと各地域で活動説明お話会が開かれるようになっており、2017 年にはセブでも開始する準備を進めており、日本とフィリピン各地で実施していきたい方針である。



チャリティパーティ

4月と12月の2回、チャリティパーティを開催し50名以上の皆様と、ハロハロの活動を紹介しながらスタッフとの交流をはかる場となった。4月のパーティでは酒井エリナ氏に司会協力いただきハロハロがプロデュースする AngKyut バッグショーなども行なった。12月のパーティでは TokyoFunkyDolls 様、吉野紗香様など著名な芸能人にもご協力いただきエンターテイメント性豊かな場となった。2017年もこうしたパーティの場も継続して設けていきたい。



出展



ハロハロの活動紹介やプロデュースするフェアトレードブランド AngKyut の出展販売を実施。2016年は日本で最大級の国際協力のお祭りグローバルフェスタに初出展し、他 NGO との連携も深められたことが大きい。イベントスタッフ不足から2015年より出展数が少なく AngKyut イベント販売数減でも

あったため、2017年は国際協力や社会貢献などへの祭典や学祭などに積極的に出展できるように体制を整えたい。

(日本) JICA 協力隊祭り、国際フェスタ CHIBA、フェアトレードフェスタちば、フェアフェス 2016、富ヶ谷フェスティバル、AOYAMA GREEN FESTIVAL、グローバルフェスタ、千葉市民活動フェスタ、幕張勤労市民プラザ防災イベント、さくらフェスタ (マニラ) ジャパニーズナイト、マニラ日本人会盆踊り大会

フェアトレードちばグループ

フェアトレードフェスタちば 2016 約500名が参加

フェアトレードセミナーの実施 約20名が参加

2015年から16年にかけてミーティングを月例化していくとともにボランティア参加者数も増加、同日程でそれぞれの個別のフェアトレードの活動について話を聞くサロンも始まり、千葉地域のフェアトレードのネットワークの理解促進と活性化を感じられるようになった。年に1度のフェスティバルの開催を継続するだけでなく、学びを深める勉強会も始まり、地域の市民活動の祭典に出展していくなど外に向けた発信も活発になった。



2: 組織運営

1人1人がビジョン達成を目指す挑戦者となる団体を目指して

2016年はボランティア、インターン、プロボノなどのスタッフ数が増加し約50名とともに活動を拡大していくため、相互コミュニケーションの活性化を図るべく、毎月末日曜の夜に日本とフィリピンのスタッフをつなぐミーティングを定例化。さらに団体理念を追求するワークショップや活動方針を固めていく中長期計画策定についてもオープンな形での話し合いを持つことで、スタッフ1人1人の参加意欲を促進した。

社員や理事の意識啓発にも取り組み、理事会や総会の活性化につながった。

年末に納会を実施し、普段事務所で顔をあわせることの少ない応援者の皆様とのコミュニケーションを図ることができた。

2016年まで専従スタッフ1名体制ですべての活動を行ってきたが、助成事業なども増え計画や報告の書類に遅れが出ていることなど1名では負担が大きく他事業にも支障が出ている。今後の事業拡大に向け2017年は専従スタッフを2名以上に増やし、日本事務局の管理運営体制を強化するほか、マニラならびにセブ事業地でもフィリピン人または日本人が現場で事業を管理運営できる体制作りを整えたい方針。

ファンドレイジングの面からも、2016年は映像や演劇の製作上映上演事業にあたる余裕がなく、この事業収益を伸ばすことができなかった。2017年は映像や演劇といった弊団体の独自の連携による強みを活かした事業展開にも期待したい。

2015年までは寄付者や会員が全体の10%に満たなかったが、2016年に認定NPO法人化キャンペーンを打ち出し、100名の寄付者会員の獲得を目標に掲げたことで、寄付者や会員の数が約2倍になっている。引き続きこのキャンペーンを強化し、100名以上の応援者を集められる公益性ある団体としても確立させていく。



2017年への挑戦

私たちハロハロが目指す社会

「一人一人が地域社会への参加意識を持ち、豊かな未来の構築に挑戦していく」

- ・社会的に弱い立場に置かれる人々のエンパワメントに重点的に取り組む
- ・地域の人々が主役になれる社会形成をサポート

《地域性や状況を見極め柔軟でいてゆるぎない組織としての存在を確立》

1：事業における2017年目標

目標や成果が見える化する指標づくり

現場へのPDCAサイクル導入による現地組織の事業運営能力強化

事業地域と裨益者数の拡大

(各事業ごとの要点)

- ・生計向上事業：フェアトレード雑貨の生産現場の人々の能力強化と組織化に重点的に取り組み、地域の人々が主体となって運営できる能力を強化する。マイクロクレジットの運用についても、地域の人々の管理運営能力の強化に引き続きともに取り組むことで、主体を人々へ移していく。
- ・教育事業：地域の中で年長者が下の子どもたちの教育を支援しロールモデルとなっていくことで循環型教育をより堅固なものとしていく。さらに高等教育に進む学生たちへはOJT（職業教育）の充実を図っていく。幼稚園や奨学金の運営費用の確保先を増やしていくことで安定させていく。
- ・啓発事業：スタディツアーをエコツアーやNGOの現場視察とするなど、オリジナリティある充実した内容にし、地域の人々の交流と参加の場を拡大していく。日本とフィリピン全域で、そこで活動する人々を中心としたお話し会やバザーなどのイベントが人々の手で開催されていくことをサポートする。

2：組織における2017年目標

・組織基盤強化

- 人財

専従スタッフ増員（日本、マニラ、セブ*日本人またはフィリピン人）と、ボランティア（プロボノ、インターン含む）の連携・育成を通し、自発的に事業の管理運営発展に関与する人材を確保。

- システム

少人数スタッフでも迅速で効果的なアプローチが行えるシステムを導入し運用することで、事務処理能力の強化とコンパクト化を目指す。

- 資金

多様な資金を獲得し、人財を支えるに十分な管理費を確保するとともに、事業の発展にあてていく。

多様な資金とは、現状弱い寄付・会費を認定NPO法人化に挑戦しながら強化していくこと、助成金を運用できる人財確保と並行し助成金獲得先を増やすこと、ネットワークをいかした映画製作やスタディツアー事業による収益の拡大、現状弱いフェアトレード事業の収益改善を図ることである。

私たちハロハロと世界にチャンスを広げて下さっている皆様 ありがとうございます!!

個人サポーター 76名

吉川和之様、黒柳英哲様、前原成利様、山田高司様、土居和弥様、千尋様、國井直温様、小林雄大様、村社淳様、西村拓人様、坂口有果様、玉置真紀子様、近江美保様、大橋弘之様、近藤浩人様、庄司香様、藤井美和子様、山野保様、牛島一樹様、深澤純子様、大澤彩香様、有澤孝治様、上村悠己様、荒木龍太郎様、渡邊省吾様、岡田純子様、矢部真子様、安田鉄平様、佐藤史隆様、磯上祐美子様、日向子様、潤奈様、麻本奈未様、守屋里緒奈様、大久保遼様、廣瀬智之様、五十嵐吉幸様、子安潤様、佐藤琴乃様、萌乃様、申自然様、中村佳美様、友美様、海宝慎太郎様、Keshav Raj Pokhrel様、大淵清子様、引地信一郎様、吉野綾子様、江口春菜様、阿久根直智様、土井法子様、田原明様、株根秀之様、阿久津純恵様、久保舞様、山崎勉様、袖野美穂様、山本一洋様、Yuna Yamazaki様、Haruna Sakai 様、Taiki Miyabe 様、Opalyn Palagana 様、Jefferson Agaloos 様 匿名 13 名様 (番号順)

団体サポーター らあ麺屋ひろ様

寄付者 合計 16 件 143,448 円

Feliz 様、阿久津様、庄司様、近江様、東南アジア研究会様、清水様、西村様、稲村様、藤本様、八角様、井上様、古屋様、牧野様、子安様、阿久根様 御篤志をありがとうございます!!

きしゃぼん×ハロハロ 古本募金 合計 21 件 43,591 円

フィガロ様、鈴木様、小林様、鳥井様、井本様、磯上様、遠藤様、藤井様、大澤様、子安様、美容室ニコピカピア様、加藤様、牧山様、印西市市民活動支援センター様、後藤様 ご協力ありがとうございます!!

gooddo×ハロハロ クリック募金 合計：7,250 円

スタッフ

理事

成瀬悠 深澤純子 黒柳英哲 玉置真紀子 庄司香 國井直温 村社淳

プロボノ

山田高司 下鳥舞佳 李智香 緒方佳子 大阿久あづさ 菊池亘 安田鉄平 廣瀬心也 安田行輝

インターン

日本事務局 麻本奈未 大澤彩香 海宝慎太郎 加藤太一 申自然 鈴木礼子 田代智也 藤原愛

マニラ 伊吹翼 上原美幸 大森明美 杉本梓 洲崎千恵 狩野未樹子 高松勇飛 只野幸一 塚本奈留美 寺尾真穂 富井七海 福永真美 三宅悠介

ボランティア

日本事務局 穂場菜々美 大豆生田愛純 小野優子 加登優子 梶本尚士 近藤浩人 近藤麻耶 高倉諒子 張朝程 中村優志 西村拓人 藤井美和子 牧野世佳 吉本美貴 渡邊省吾

フィールドジャスミンリサ フィールドライラック ジェフ・ホートン

フェアトレードちば 岡美由紀 大城三加子 本田詩織 山野保

マニラ 渡辺洋子

セブ 池田歩 榎園裕輝 小柳雄介 中野裕太

現地協働団体

マニラ

Paaralang Pantao ごみ捨て場のふもとの思いやり学校 Samakabai ごみ捨て場のふもとの住民組織

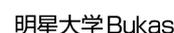
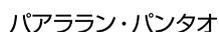
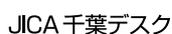
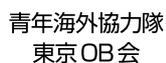
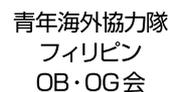
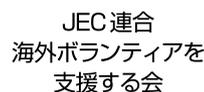
Vincenian Missionaries Social Development Foundation フィリピンの人権擁護団体

セブ

Tulay sa Kinabuhi セブ事業地のキリスト教プロテスタントのNGO Dumlog Fishermen Association セブ事業地の漁業組合

Hope Mothers Group セブ事業地の女性グループ New Life Saving Cooperative セブ北部事業地の女性グループ

協力団体の皆様



RIVERSIDE CHRISTIAN OUTREACH CHURCH



THINK FOR THE MOTHER'S
PRAYER

...
...
PRAYER



NPO HALOHALO